

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
90	明星大学	社会福祉論	石田 健太郎 教育学部 准教授	2	後期	水	15	10:45～12:15	明星大学 日野キャンパス	若干名

【到達目標】

行動目標

<予習>シラバス・事前配布レジメに沿って予習し、課題をおえてから、毎時限の授業に参加すること(30分程度)

<授業中>講義に集中して取り組む、また、教授者からの発問や問いかけに対し、積極的な姿勢でやりとりをすること。個人あるいはグループ単位での活動を行う際は、グループメンバー相互の意見を傾聴するとともに、感情的・情緒的非難ではなく、根拠に基づいた批判や代替案の提案を行うなど、受容的・主体的な姿勢での参加が必要となる

<復習>以下、2点について60～90分程度の復習を行うこと

①毎時配布されるレジメをファイリングするとともに、講義ノートを作成すること(30～60分程度)

②授業後、あるいはセクションごとに示される学習課題を期限内に終え、LMSに提出すること(30～60分程度)

到達目標

①社会福祉(社会政策・社会保障を含む)の基本的知識の学修を通して、多面的に現象を理解し、当事者の生(生命・生涯・一生)の多様な在り方、を肯定的に受容できるようになる

②社会福祉(社会政策・社会保障を含む)に対する基本的理解の達成を前提として、トピックについての個人あるいはグループ単位での活動を行うことで、自己と他者の主体性の尊重と働きかけを行う力(専門性)を涵養するとともに、そこでの課題の発見や解決の提案を行えるようになる

③社会福祉(社会政策・社会保障を含む)が保障すべきあたりまえの生活やその方法について、考えることができるようになる

【授業の概要】

本科目では、社会福祉(社会政策・社会保障を含む)に関する概念および制度設計のしくみについて基礎的知識の習得を行う。はじめは、社会福祉(社会政策・社会保障を含む)に関する官公庁や先行研究によって収集された諸データ(量的・質的調査の結果)を概観し、その特徴を理解する。つぎに、データ理解にもとづいた現象解釈を批判的に検討する(クリティカルシンキング)ための視点・概念を導入する。その後、トピックの内容をより深く理解するために、個人およびグループ単位でカードワークやロールプレイ、ケーススタディ、プランニング、タブレットを活用した調べ学習などを行う。

【授業内容】

1. イントロダクション:なぜ、社会福祉を学ぶのか?:子どもと貧困
2. 人の一生と社会福祉政策
3. 貧困って何だろう?:わかりやすい貧困とわかりにくい貧困
4. 生活に必要なこと?生活構造とニードの理解
5. 社会福祉における家族の位置づけ:家族扶養規範について
6. 所得保障のしくみ 1:生活保護制度
7. 所得保障のしくみ 2:年金保険制度
8. 医療保障のしくみ:医療保険制度
9. 介護保障のしくみ:介護保険制度
10. 障害の経験 1:障害って何だろう?
11. 障害の経験 2:差別と合理的配慮
12. 障害の経験 3:自立生活を支援すること
13. 福祉専門職の専門性
14. 福祉と性の問題
15. 社会福祉のゆくえ

【成績評価方法】

評価の方法・総合評価割合

①10%:予習・復習

②10%:活動への参加状況(主体性[オートノミー、アイデンティティ]、運営管理・統治[アドミニストレーション]、創造性[クリエイティビティ]、多様性[ダイバーシティ])

③10%:ポップクイズ

④10%:コミュニケーションペーパー(①何を、②どのように、③なぜ、④どうする、⑤疑問、⑥質問)

④60%:試験

筆記試験では、実際の生活課題に取り組む上での方法や課題について考察・論述する問題を出題します。授業の内容を踏まえた論述(キーワードの定義、現状理解、課題の把握、対応)が、論理的・説得的に行えるかどうかの評価のポイントです

【教科書、参考書、教材等】

各回の予習・復習用に、レジメや参考資料を事前にLMSに提示する

各種白書および官公庁等の統計資料(e-statなどの活用)

教科書:安心感と憧れが育つひと・もの・こと—環境との対話から未来の希望へ/齋藤政子編(明星大学出版)/2,300円

※ この授業は、9/16(水)が初回です。